

## 12. 慢性皮膚疾患における骨シンチグラフィ

増田 安民 中島 秀行  
 大村 昌弘 浜田 国雄  
 伊丹 道真 竹本 和正  
 越智 宏暢 玉木 正男  
 (大阪市大・放)  
 庄司 昭伸  
 (同・皮)

慢性皮膚疾患患者67例に骨シンチ ( $^{99m}\text{Tc}$ -リン酸化合物 20 mCi (成人)) を施行し、41例に骨への RI 異常集積を認めた、今回は時間の都合上、乾癬患者の骨シンチについて報告した。乾癬での骨シンチについての過去の諸報告はすべて手・足のみを観察したものであるが、われわれはすべて全身骨シンチを施行し、乾癬患者 38 例中 20 例に RI 異常集積を認めた。

結果：1) 異常集積と発病からの期間との関連はなかった。2) 異常集積部は手足の小関節部 9 例 (45%)、肋骨 6 例 (30%)、胸腰椎その他 7 例 (35%) であった。3) RI 異常集積は手足の骨などでは多発し、肋骨・椎骨等では単発限局するものが多かった。4) 手の経時的観察では、関節痛が強い時よりも寛解期に RI 異常集積が認められ、またその異常集積が経時的に手根骨から遠位関節部へ移行する傾向をみた。X 線検査では、寛解期に遠位関節部にのみ変化を認めた。5) RI 異常集積を示した肋骨の組織学的検索で、骨増生と線維化を認めた。

## 13. 利尿剤負荷前後の腎ファンクショナル・イメージ

西村 恒彦  
 (国立循環器病センター・放診部)  
 木村 和文 柏木 徹  
 (阪大・中放)

腎内局所における血流、排泄などに相当する機能を地図状に表現する腎ファンクショナル・イメージを作成、利尿剤負荷前後に本法を施行、臨床

的検討を行なった。日時を変え、Furosemide 20 mg を用い、 $^{131}\text{I}$ -hippuran 500  $\mu\text{Ci}$  静注後サンプリング・タイム 20 秒にて 20 分間撮像した経時的腎シンチグラムデータを用いた。腎機能正常例では負荷後 Tmax, T1/2 の短縮を認めるも Tmax, Up, Down Slope の画像で著明な差異はなく腎血流量は変動せず尿細管の通過時間の短縮に基づくと考えられる。一方、部分的通過障害例では腎盂部位の停滞が改善され、水腎症例では患側では不変であり健側における排泄の良好なことがわかる。腎炎、腎不全例では腎機能障害の程度に応じ画像上改善が認められる。本法では、閉塞性尿路疾患の部位、鑑別診断のみならず慢性腎炎などびまん性疾患においても tubular cell damage の程度を画像として、また局所毎に観察することができ病態生理の把握に有用である。

## 14. 長期 follow up したシンチグラムについて

土田 龍也 中島 利之  
 (城北市民病院・RI)

過去 12 年間に施行した肝と腎のシンチグラフィの中から長期 follow up することのでき、しかもそれによって手術前後の経過観察に、あるいは慢性に進む症状の診断に有用であった 8 症例を選び報告する。期間の最長は 10 年 6 ヶ月、最短は 1 年 8 ヶ月で、ともに肝硬変症である。

症例 1, 2 は肝硬変症。 $^{198}\text{Au}$  コロイドや  $^{99m}\text{Tc}$  錫コロイドの肝シンチグラムによって脾の腫大・濃厚化に対する肝の萎縮・稀薄化へと移行するが、1 例は 10 年間に徐々に進行し、今なお生存中、他の 1 例は逆に極めて速やかに進展し死の転帰をとった。症例 3 は肝癌。2 年 8 ヶ月に 3 回肝スキャンを施行。シンチグラムは左右両葉の境界から発生した欠損が拡大してゆき左葉の大半と右葉の中央までおよんだ経過を示している。症例 4 は総胆管拡張症。 $^{131}\text{I}$ -BSP の経時的シンチグラフィにより、術前の囊腫、術後の通過状態を 3 年間診断した。通過障害増強により再手術施行に至る。症例 5, 6 は先天性胆道閉塞症。1 例は術後シンチグ